

2023 11/11 [土]
/12 [日]

全四回公演

両日とも

演目1
13:30-15:00

演目2
16:00-17:30

新内節

で語る

明治文学

新内節

岡本宮之助をきく会IV



出演

岡本宮之助

岡本宮弥

岡本文之助

演目1

- ◆ 新内流し〜古曲吹き寄せ
- ◆ 雁 原作 森鷗外、岡本文弥作品
- ◆ にごりえ 原作 樋口一葉、岡本文弥作品
- ◆ 水の新潟 詞章 五十嵐雅水、作曲 岡本宮之助
- ◆ 他

演目2

- ◆ 新内流し〜古曲吹き寄せ
- ◆ 月夜の題目舟 原作 泉鏡花『葛飾砂子』、岡本文弥作品
- ◆ 十三夜 原作 樋口一葉、岡本文弥作品
- ◆ 水の新潟
- ◆ 他

要申込

10月18日受付開始(裏面参照)

会場/砂丘館 座敷・居間・茶の間

主催/砂丘館

一般 各回三千円

中高校生 各回二千円

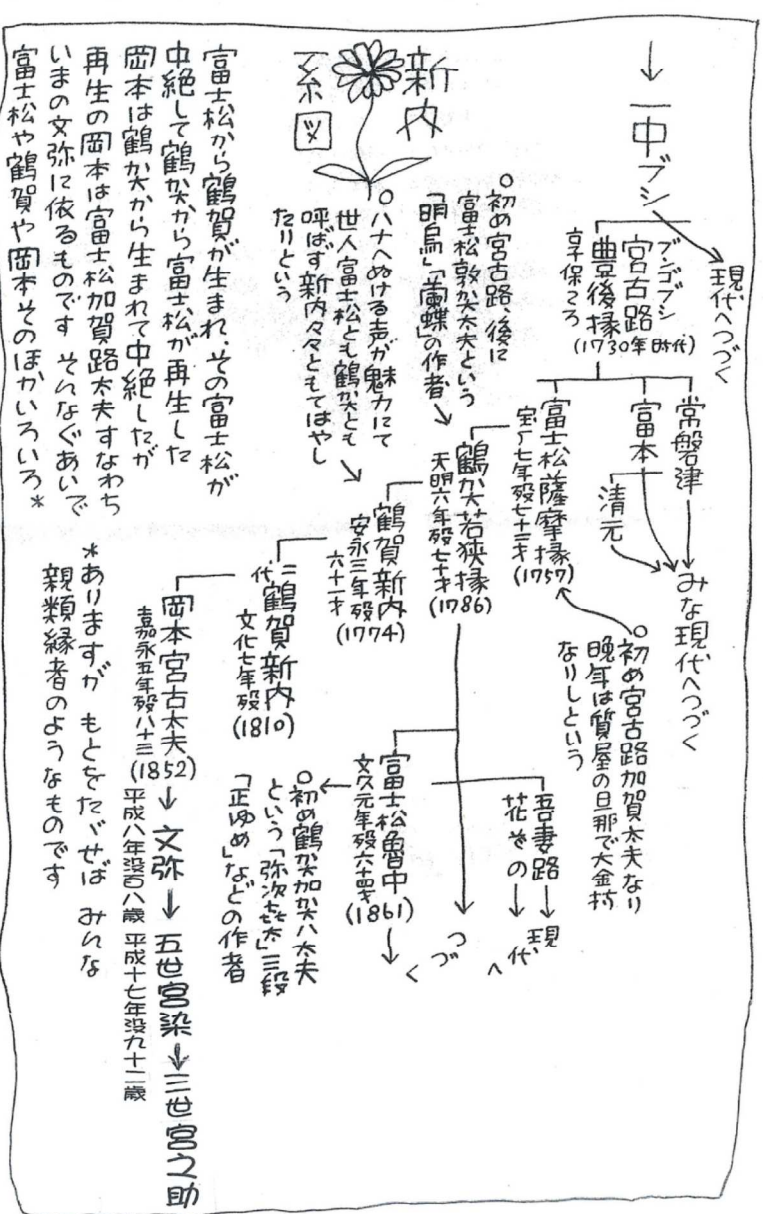
〈二回目以降の参加は五百円引き〉

〈定員各回二十五名〉

三世 岡本宮古之助 (三世 岡本宮古大夫)

新内節・岡本流後継者として大祖父・岡本文弥、五世宮染に師事。岡本文弥と親交の深かった邦楽演奏家・平井澄子にも薫陶を受ける。岡本流以外では演奏不可能になった多くの浄瑠璃を正しく継承。「演奏しなければ無いも同然」をモットーに、岡本流のみに残る稀曲の保存に努力する。膨大な文弥作品と共に新内節普及に奮闘中。また新曲創作にも積極的に取り組む。創作依頼も多く、作品の評価も高い。演奏会、舞踊会、放送など出演多数。

岡本文弥編者『正本新内集』(一九六二)より 文弥自筆の新内系図(のちに文弥、五世宮染、二世宮古之助を加筆)



新内節とは

新内節は扇情的とも評された京都発祥の豊後節の流れを汲み、江戸中期に鶴賀若狭掾とその美音の門弟・鶴賀新内によって確立された江戸浄瑠璃の一派です。早くから劇場を離れて素浄瑠璃として発展し、また、遊里を舞台とした「流し」と呼ばれる独特の演奏形式を生み出して人気を博しました。情感溢れる節回しで遊女の哀切や人情の機微を細やかに語る芸風は庶民に愛され続け、『蘭蝶』『明鳥』が古典の名曲として知られています。

新内流し

新内と言えば、時代劇で花街や遊里を歩いていく(新内流し)の姿を思い浮かべる方も多いでしょう。地の三味線と上調子の二挺三味線で街頭をチンカラチンカラと流し、町家の軒先で立つたまま、呼ばれた時には座敷に上がって語る演奏形式。新内は「流し」を通して町の中で芸を聞かせ、町の人と親しくなっていたのです。



樋口一葉のお札が消えゆく2023年秋。2022年に続き四回目の開催となる「新内節・岡本宮古之助をきく会」では、一葉原作の『にぎりえ』『十三夜』を中心に、森鷗外、泉鏡花原作の小品を添え、明治文学の名作の世界を新内節の語りで浮かび上がらせます。

いずれも百一歳の生涯に多くの新作を残した新内節の名手・岡本文弥のヒット曲。江戸の芸能・新内節が新しい時代の空気をどう描くのか、乞うご期待！

また、前回お目見えした新濁の新・()当地ソング「水の新濁」(岡本宮古之助作曲)も賑やかに再演いたします。

秋の一日、三味線の艶やかな音色と共に、新内節の情緒溢れる語りをたっぷりとお楽しみください。

申込方法

- ◆ 希望日時、氏名、連絡先(電話番号)、人数を添えて左記にお申し込みください。
 - ◆ 電話・FAX 025-(222)-2676
 - ◆ Eメール yoyaku@bz04.plala.or.jp
- 申込受付開始 10月18日(水) 朝9時

*Eメールでの申込も朝9時以降にお願いします。
*いただいた個人情報はこの催しに関するご連絡以外には使用しません。



砂丘館

〈私たちは砂丘館を応援しています〉

指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体
新潟市中央区西大畑町 5218-1 tel.025-222-2676

アクセス: 新潟駅万代口より浜浦町線 C2 系統または観光循環バス「西大畑坂上」下車徒歩1分
※砂丘館には駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用ください。 ※新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は駐車券提示にて1時間分の無料券を差し上げます。